

新任校長の紹介

「自然豊かな心温かい地で」

黒東小学校 校長 鍋谷 靖子

学校現場を1年離れ、この4月に黒東小学校に着任しました。全校児童98名、全ての子供たちの顔と名前を覚えているところですが、子供たちの明るい笑顔や友達と関わり合いながら伸び伸びと活動する姿に、改めて新鮮な驚きや喜びを感じています。

着任した黒東小学校は、自然の恵みが豊かです。児童玄関前の柱の角には、ツバメの巣があります。子供たちが多く行き来する場所に安心して巣づくりをしたせいか、日に日に雛が育っており、その成長を子供たちが目を輝かせて見つめています。この他にも、登校時にヤモリやクワガタを嬉しそうに手に持ってやってくる子に、周りの子供たちが興味深そうに話しかける姿も見受けられます。改めて感心するのは、大休憩や昼休みになると、たくさんの子供たちが広いグラウンドに集まり、学年混ざって思い思いに遊ぶ姿が見られることです。高学年が優しく低学年に関わる姿、素直に関わりを求める低学年の無邪気な姿、仲間と共に力いっぱい遊びに打ち込む姿を見ると、子供同士のつながりが感じられて、心が温かくなります。教職員も見守り、時には一緒に活動しています。黒東小学校が、正に一つのチームのようです。

朝、児童玄関の前で子供たちを迎え入れています。遠くから「おはようございます」と大きな声で挨拶する子、しっかり顔を見て笑顔で挨拶する子、はにかみながら返事をする子等様々です。この時間は、私にとって全校の子供たちと直接言葉を交わせる貴重な時間です。短い会話の中から、それとなく心の中の様子がかがわれることもあります。それぞれの思いを胸に登校してくる子供たちは、いざ学校に入れば家庭から学校モードに切り替えて、互いに関わり合いながら集団生活を学んでいます。

変化の激しい時代に生きる子供たちが、社会でしっかり生きていくための土台づくりができるよう、教職員一同思いを一つにして子供たちの健やかな成長を目指して取り組んでいきたいと考えています。

「見える景色が変わるとき」

桃李小学校 校長 水島 佳織

「校長先生になって、嬉しい？」ある日、子供から不意にそんな質問を受けました。私は少し考えて、「みんなが元気に学校に来てくれた姿を見られるのが、すごく嬉しいよ」と答えました。よく「校長になると見える景色が変わる」と言われますが、実際にその立場になり、見え方がずいぶん変わったように感じています。同じ学校にいるはずなのに、子供たち一人一人がどれほどかけがえのない存在であるかという実感が、強く胸に迫ってくるのです。見つめる景色が変わると、自然と子供たちにかける言葉や自らの行動も変わっていくのを感じています。

私の心のよりどころは、ある先輩からいただいた「一人の子をないがしろにすると、教育はその光を失う」という言葉です。富山県の幼・小・中学校教育指導の重点にも「一人一人を見つめ、育てる」ことが掲げられています。この言葉たちを今、改めて深く肝に銘じています。

私の願いであり、夢。それは「今日も学校に行きたい」と誰もが思える学校を、子供たち、教職員、保護者や地域の皆さんと共につくっていくことです。そのために私は対話を心がけ、目と耳、そして「心」で声を聴き、それぞれの思いを引き出したいと考えています。一人一人が認められ、自分の居場所があると感じられる学校でありたいと強く思うからです。

もちろん、学校現場には様々な課題があります。しかし、それをみんなで知恵を出し合って解決していくことこそが、学校経営の醍醐味であると感じています。

子供たち、保護者・地域の皆様、そして教職員。学校に関わるみんなの笑顔があふれる桃李小学校となるよう、これからも一人一人に寄り添い、日々精進してまいります。

新任教員の紹介

「教師になって」

入善西中学校 教諭 伊東 祐芽

教師になって、毎日が学びと発見の連続だと感じています。授業づくりでは、「どうしたら分かりやすく伝わるか」「どんな活動なら生徒が意欲的に取り組めるか」を考える難しさを実感しています。一つの授業を行うまでに、多くの準備や工夫が必要であり、生徒の反応を見ながら改善していくことの大切さを学んでいます。

また、学級経営では、生徒一人一人の性格や考え方が違うので、それぞれに応じた関わり方が必要だと感じています。嬉しそうに話しかけてくる姿や、頑張っている様子を見ると、私自身も元気をもらっています。その一方で、どのような声かけや励ましをするとよいか悩むこともあります。先輩方から助言をいただきながら、日々成長していきたいと思っています。

さらに、教師という仕事は、生徒に教えるだけではなく、自分自身も成長できる仕事だと感じています。生徒との関わりを通して、相手の気持ちを考えることや、伝え方を工夫することの大切さを改めて学んでいます。これからも、生徒が安心して過ごせる学級づくりを目指して、一人一人に寄り添える教師になれるよう努力していきたいです。そして、生徒と共に過ごす毎日を大切にしながら、信頼される教師を目指していきたいです。

「教師になって」

入善中学校 教諭 長崎 恵大

体育教師を志した日から、10年が経とうとしています。ただ体育が好きな目立ちたがりやで、声が大きくて少しだけ字がきれいな中学生だった私に「先生、向いているかもよ」と、当時の先生が背中を押してくださいました。あの日、「将来は先生になるんだ」と思い込んだ素直な少年が、今年度から入善中学校で体育教師をさせていただいています。当時、先生が本気で言ってくださったのかは分かりませんが、私にこの素晴らしい世界を教えていただいたことに、心から深く感謝しています。

現在は2学年の学級担任を務めています。赴任して2か月経過しましたが、周りの先生方の温かいサポートに助けられ、元気いっぱいの生徒たちからエネルギーをもらい、非常に楽しく、充実した環境で教員人生のスタートを切ることができています。

まだまだ新米の私ですが、教員人生で成し遂げたいことがあります。それは、関わる生徒全員を健康人間に育てることです。私たちは、動くことで『ヒト』となり、群れることで初めて『人間』になります。だからこそ私は、体育の授業で体を「動かし」、学級という集団の中で仲間と「群れる」経験を大切にしたいのです。心と体の双方が満たされてこそ、真の健康人間になれると考えています。

「體育富強之基」の教えを胸に、心身ともにたくましく、粘り強い生徒の育成に努めてまいります。そのために、私自身も絶えず学び続ける熱い1年にします。